

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370700288		
法人名	社会福祉法人門前保育会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	岩手県久慈市新中の橋4-12-2		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;Ji_gvosvoQd=0370700288-00&amp;Pr_efQd=03&amp;Ver_si_onQd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;Ji_gvosvoQd=0370700288-00&amp;Pr_efQd=03&amp;Ver_si_onQd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番地1号 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年12月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>隣接している保育園児の元気な姿が日々見ることが出来、お迎えのご父兄との交流も図れる。</li> <li>園児たちに「おじいちゃん おばあちゃん」と声かけられ、子供たちが園庭で遊んでいる時には一緒に交流する事もある。</li> <li>施設周辺には市民体育館、図書館、スーパー等があります。</li> <li>利用者様一人一人の希望に沿った支援を行っています。</li> <li>掃除・食事の準備・片づけ・買い物等職員と利用者と一緒にしています。</li> <li>利用者様の笑顔が毎日見える支援を行っています。</li> <li>日々会話の飛び交う賑やかなGHです。</li> </ul>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所から12年目を迎える事業所であり、開所当時より一貫して利用者と共に買い物や散歩、畑仕事等外に出かけ、出会った方々と挨拶を交わす関係づくりを行っている。この積み重ねにより、地域の中でグループホームについての理解を深めてきており、今回の台風10号浸水被害で避難する際に、地域の方が自主的に手伝ってくれるという成果を生み出している。この事業所の特に優れているところは、利用者のADLを低下させないように、日常生活の中でできることをたくさんやって頂けるように工夫していることである。居室や廊下、トイレ等の掃除は日課となっており、週に3回はねこ(一輪車)を押して近くのスーパーまで買い物に出かけている。暖かい時期は畑仕事にいそしみ、調理の下準備は利用者だけで行うこともあるという。排泄の自立にもしっかりと取り組み、明るい雰囲気の見守りと声かけの下、利用者は今日も元気に過ごしている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日朝のミーティングで運営理念を唱和し、1日の意識付けを行っている。</li> <li>・利用者様の個々の希望に沿った支援を行えるよう傾聴に力を入れています。</li> </ul>	理念は、「自分が住みたいグループホームとは」について、職員間で話し合いまとめたものである。「その人らしさ」や「個々の希望にそった支援」を大事にするため、入居の年数やその方の状況に応じて適切な関わりを持っていくか、理念に立ち戻り話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方と話す機会がある時には、なるべく利用者様と一緒に交流を図るよう配慮している。</li> <li>・小学校、高校等の行事に参加することで、地域の中での生活していること意識付けにつなげている。</li> </ul>	利用者と共に外出する機会を多く持ち、地域の皆さんに挨拶をするように心がけ、顔の見える関係作りに努めている。中学生の体験教室や教員の福祉体験等の受入れにより、グループホームについての理解を得られ、学校訪問もしやすくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生、専門学生、教職員の福祉体験等を受け入れる事によって、少しずつ、施設や認知の理解が進んでいると思われる。</li> <li>・ご近所の方、職員の知り合いの方々から色々な質問を受ける様になり、答えられる範囲で地域に情報提供の一助になっていると感じる。</li> </ul>	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員も参加する事により、日々悩んでいる事を相談できる機会となっている。</li> <li>・様々な情報や意見を聞くことが出来る事により、自分たちの支援方法を再確認できる機会にもなっている。</li> <li>・施設の情報を伝える事により、推進メンバーの方から沢山の情報や気遣いを頂いている。</li> </ul>	職員が交代で会議に参加し、自らの悩みや生の声を話すことで、運営推進委員の理解も深まり、職員も外部の視点に気づく場として有効活用されている。会議の中で、「抜き打ちでの避難訓練をやって有事の際に備えてみては」など、運営に関する意見等もいただき実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議の案内文書は出来るだけ、手渡す事により、会議以外での交流を図れる様努めている。</li> <li>・包括・居宅等利用者様についての情報交換することにより、利用者様のスムーズな支援につなげている。</li> </ul>	なるべく市役所に足を運ぶことで、様々な情報を得ることができ関係づくりに役立っている。事業所で受けた相談を、包括支援センター等に繋ぐこともある。生保担当や社協の日常生活支援事業との連携も図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束は行っていない。以前1件拘束を行ったが、ご家族への説明と理解をきちんと得てから行っている。</li> <li>・研修会への参加も検討しているが、今年度は参加人数の関係から参加できていない</li> </ul>	玄関のチャイムや居室のセンサーマット等は使用されておらず、職員の注意深い見守りで安全が確保されている。日々のケアの中で、職員同士で声を掛け合い話し合うことで、身体拘束についての意識を高めている。	「身体拘束をしないケアの実践」に対する意識や実践の根拠となり得るマニュアル等の検討・作成を期待したい。また、それらを基に学びの機会を持っていく事に更に期待したい。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体的虐待は行っていない。 ・言葉・威圧的な態度など見かけたときには職員間で注意しあっている。 ・職員間でのやり取りで改善が図られない時には、管理者より指導を行っている。 ・「これは・・・」と思うような行為があった時には上司に報告し対応策を考え虐待につながらないように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在利用している利用者様はいない。 ・金銭管理を社協のサービスを利用している方が1名 ・必要な方には紹介している。 ・研修会の案内もあったが、今年度は参加していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時契約書・重要事項説明書にて説明している。 ・不明なときにはその都度の説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を設置し意見を取り入れられるよう努めている ・利用者様に関しては、普段の会話の中から、要望を聞きだすよう努めている。 ・ご家族様については、面会時、利用者様の状態を伝えながら、要望等を聞いている。	家族に利用者のことを伝えながら話をしやすい環境をつくっている。話好きな利用者が、外部の傾聴ボランティアの会に参加できるように手続きをしたり(結果として参加はなかったが)、家族からの「外に連れ出して欲しい」との要望を受けて、車椅子で買い物に出かけるなど支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・業務会議、申し送り等で機会がある。 ・意見を上司にぶつけても受け止めてくれるので助かっている。 ・その都度話を聞いてもらえる ・変更用紙に記入し業務内容見直せるようにしている	日常業務における気付きを職員間で話しやすい環境にある。今年度からは、業務内容を変更したいことについて書面にまとめ、それを基に現場で話し合い、業務会議で決めるようにしている。この取組みにより、職員の理解の食い違いを減らすことができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・資格取得等の希望があれば働きながら学ぶ機会が設けられている。 ・希望休・研修等も勤務調整に反映してもらえるため助かっている。 ・支援面でつまづいたとき等助言してもらえるので、モチベーションを保つことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修等には積極的に参加するよう勧められている。 ・研修に参加することで、自分の足りない部分を知ることが出来、自己研鑽のよい機会になっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH協会の交換研修を行うことで、他施設、自施設のサービスの違いを知ることが出来る。 ・他施設職員との交流会を企画。現在実施に向け取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所直ぐに信頼関係を築くことは難しい。傾聴を中心に支援にあたることによって、信頼関係を築けるよう努めている。 ・環境変化によって不安が生じないよう前サービス事業所、ケアマネ、看護師等から情報を聞きながら、引き続きの支援が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所事前聞き取りの段階で、できるだけご家族の話を聞くように努めている。 ・ご家族来所時、安らげるよう、笑顔であいさつ、あいさつ後すれ違うときには会釈、帰り際の玄関でのお見送りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・申込み時、GH対象外の方には、必要なサービス及び相談窓口を紹介している。 ・不安で気持ちを聞いていただきたい相談者には傾聴し心が少しでも軽くなるよう努めている。 ・前サービスの継続を踏まえ、ご家族と相談の上サービスを計画している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・当施設が一番力を入れているサービス項目。 ・「職員も助けられているお互い様」の関係作り。 ・本人の能力に応じて「出来るところ」探しに視点を置いた支援 ・一緒に掃除、食事準備片付け買い物等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・受診対応はご家族にお願いし、利用者様との距離が離れないよう配慮している。また、物品等の購入も出来る限りご家族にお願いしている。 ・月1回施設広報と受診案内で施設での生活の様子や、ご本人様の状態をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・行きつけの理美容店・薬局・衣料店などをご家族の協力やタクシーを利用して出かけられるよう努めている。 ・入所時には自分の使い慣れたものを持ち込んでいただくようお願いしている。 ・地域の敬老会等にも参加	行きつけの理美容店や出身地域の敬老会に、家族の支援を受けて出かけている。なじみの店員がいる衣料店での買い物に職員が付き添ったり、薬局に自分で電話して常備薬を届けてもらったりと、以前からの関係継続の支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者同士の関係性が出来上がっている様子。</li> <li>レクや作業を通じ常に会話できる環境づくりに努めている。</li> <li>なぜか食事時間はみんな無口である。</li> <li>うまく馴染めない方は時間をかけ関係性を作っている途中である。</li> </ul>		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅サービス継続の場合は、直接担当ケアマネに情報を伝えている。</li> <li>施設サービスの場合もサマリーにて情報を提供している。</li> <li>退所後は、あまり係ることはないが、施設等に面会に行くこともある。</li> </ul>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段の会話の中から希望・意向を把握できるよう努めている。</li> <li>うまく発信できない方は、行動や表情からそのサインを読みとるよう心掛けている。</li> <li>基本的には本人視点にたち検討しているが、全てをかなえてあげることは難しいと考える。</li> </ul>	利用者の表情や行動から、どうしてそうなのかと原因を探りつつ介護にあたっている。職員の気づきは、ケース記録に記入し共有している。1人暮らしだった方が多く、家族からの情報で足りない部分をサービス事業者等からの情報で補い、本人のできていたことの継続を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>入所前に前サービス提供者、ケアマネ、ご家族から情報を収集し出来るだけ、サービス継続できるよう努めている。</li> <li>会話の中から個人の生活歴等は聞き取りを重ね、情報を追加できるよう努めている。</li> </ul>		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝健康チェックをしている。</li> <li>朝の申し送り時状態を共有している。</li> <li>状態変化に気づいたときには、職員間で連絡・相談・報告をし情報を共有するようにしている。</li> </ul>		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的にプランを見直ししている。</li> <li>居室担当制を取り入れ、家族・利用者様の意向は担当者が確認し、モニタリングを行っている。</li> <li>現状にあったプラン作成に努めている。</li> </ul>	3ヶ月ごとのモニタリングを基に、必要に応じてケアプランを変更している。モニタリングが非常に丁寧で細やかである。スタッフの情報収集する目を育てており、利用者が落ち着かないのは対応の仕方が悪いと自らを戒め、生きたケアプラン作成を皆で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケース記録・個別のチェック表を利用し情報を共有している。</li> <li>日々の変化はケース記録に記入。申し送り等を利用し、早めの対応に心掛けている。</li> </ul>		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様の「やってみよう」の声を実践できるよう努めている。</li> <li>・柔軟な支援で対応しているが、家族の協力や職員体制等のこともあり、その都度最良の方法を選択している。</li> </ul>		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用、市民体育館のイベント見学・小学校・高校文化祭等地域での楽しみを見つけるようにしている。</li> <li>・外出・散歩等を行うことで地域の方々と顔なじみになってきている。</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診時情報提供書や、同行受診を行い利用者様の状態を伝えている。</li> <li>・協力医では、年2回歯科検診を実施している。</li> <li>・救急の時には一旦家族の了解を得てから受診している。</li> </ul>	受診時の付き添いは、家族にお願いしている。受診を通して、利用者と家族が会う機会をつくり、つながりを維持したいと考えている。家族の都合が悪い時は、シルバー人材センターのヘルパーに頼んだり、事業所に対応することもある。医療機関への情報提供は、書面で行い円滑な受診につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内には看護師はいないため、同法人の看護師に相談し救急受診等の判断をしている。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院時にサマリーを提供している。</li> <li>・入院後の様子は定期的にご家族・看護師・ケースワーカー等と連絡を取り状態把握に努めている。</li> <li>・退院時の説明には同行し、ご家族と一緒に今後の対応方法等を確認している。</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看取りは実施していない。</li> <li>・申込み時・相談時に看取りを行っていないことを説明している。</li> <li>・状態が変化しつつある場合には、家族に状況説明し、次の施設等の申込みしていただく。</li> <li>・家族が希望する場合には、特別の医療が必要になるまでは、できる限りの対応に努める。</li> </ul>	利用者の歩行状況が低下していた際など、家族に相談している。経管や痰の吸引などの医療が必要になった時はお世話が難しいと考えているが、一律に退所をすすめてはいない。車椅子や寝たきりの方もお世話したことがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急救命の講習会は毎年実施している。</li> <li>・避難訓練・通報訓練は実施。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は定期的に行っている。</li> <li>・水害想定はしていなかったため、今回の災害でマニュアル化した。</li> <li>・今回の災害では、地域住民の協力もあり、無事避難することが出来た。</li> </ul>	<p>今回の水害では、床下浸水があったが、近隣の方の協力を得て避難をした。利用者をおぶって車に乗せてくれたり、荷物を運んでくれたりと有事の際の地域の協力が得られている。年2回火災想定避難訓練を実施している。今後は、運営推進委員から提案のあった夜間想定訓練を実施予定である。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入室の際には利用者様より許可を得てから入室している。</li> <li>・話し言葉は、個々の利用者様に合わせて変えている</li> <li>・個人的に話をしたい利用者様には1対1で対応できるように心掛けている。</li> </ul>	<p>職員同士で利用者について話をする時は、個人が特定されないような話し方を心がけている。物の配置の変化が気になる利用者にはきちんと説明して納得して頂いてから動かすようにしている。個々の人格にあわせ、穏やかに過ごせるように接している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己決定できるように、問いかけるような声掛けに心掛けている。</li> <li>・問いかけに対して「分からない」「どちらでも」となかなか自己決定できない方にも、なるべく自分で選べるよう声掛けている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の都合より、希望を優先するよう努めている。</li> <li>・できることへの参加を促しているが、無理はせずできる時間帯に行っている。</li> <li>・常に声掛け、コミュニケーションを意識している。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣類選択は個人に任せている。</li> <li>・季節はずれの服装の方には声を掛け選択方式で選んで頂く。</li> <li>・利用者様によっては、きちんと外出用を分けている方もいる。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作り方を聞きながら一緒に調理を行う</li> <li>・味付けはどの方も警戒するが、盛り付け、きり方、片付け等各々の得意分野で協力して下さる。</li> <li>・メニューには利用者様の希望を取り入れ突然メニューを変えることもある。</li> </ul>	<p>週に3回、食材の買出しに利用者も一緒に出かけている。チラシを見ながら何を食べたいか相談して、献立に反映している。食材の皮向きや切り方、盛り付け、片付け等、利用者が積極的に動いており、残食はほとんどない。畑で採れた野菜も食卓を彩っている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事量は個々に変えている。家族の希望を取り入れ調整することもある</li> <li>・水分は1日1000～1200CCを目標にしている。水分摂取を好まない方には、作業後、入浴後などこまめに提供するよう心掛けている。</li> </ul>		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後歯磨きの声掛けを行っている。</li> <li>・食前の口腔体操を行うことで唾液の分泌を促すように努めている。</li> <li>・歯磨きが不十分な方には職員が仕上げ磨きを行っている。</li> </ul>		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリパンツを使用している方もいるが、基本的には使用しないようにしている。</li> <li>・排泄行動パターンを把握し、個々にあった支援をしている。</li> <li>・なるべく失禁に繋がらないよう作業前等はトイレ誘導を心掛けている。</li> </ul>	利用者はパットとの併用の方も居るが、基本的に綿の下着を使用している。入所時に、綿の下着に切り替えたいことを家族に説明し、しっかりと排泄パターンを把握した上で切り替えに成功している。自立支援を目指し、機能向上・維持に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水分摂取と運動を心掛けている。午前・午後の回廊を歩きリハビリ。声を出すことによる腹筋への刺激等を心掛けているが、殆どの方が下剤を使用している。</li> <li>・便秘で不機嫌になったり、食事が減少しているときには、下剤量を調整している。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴日は決まっているが、時間帯は設定していないため、好きな時間に入浴できるよう配慮している。</li> <li>・仲間同士一緒に入浴する方もある。</li> <li>・シャワー浴・足浴を希望する方の場合その都度対応している</li> </ul>	入浴日は、月、木と決めており、最低でも週に1回は入浴できるように支援されている。ヒノキ風呂で木の温かさが感じられる。それぞれが好みの時間に入浴でき、親しい人同士で入ることもある。季節の菖蒲湯やゆず湯も提供されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然な睡眠を導入できるよう、日中はなるべく活動的に過ごせるよう努めている。</li> <li>・天気の良い日は屋外での散歩等、施設内だけの生活にならないよう意識している。</li> <li>・寝具の調整、布団干し等その都度行っている。</li> <li>・夜間巡視時は足音を立てないように配慮している。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい利用者様の場合、職員が各自病名と薬を把握するよう指導している。</li> <li>・薬の確認は必ず2名で行い誤薬の防止に努めている。</li> <li>・薬の変更があった場合連絡に記入し、申し送り等で職員間での確認を行っている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活歴や日々の会話から楽しんでいたこと、得意なことを探り、行えるような支援に努めている。</li> <li>・散歩・畑・子供たちとの交流などで気分転換を図っている</li> <li>・決まった作業をすることで、自分の役割を見つけ頂く</li> </ul>		



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生日にはご本人の行きたい所に職員と一緒に出掛ける。</li> <li>・家族の協力で地域の敬老会、市の行事等に参加</li> <li>・ドライブなどでいつもと違う景色を楽しめるように努めている。</li> </ul>	散歩や買い物等、なるべく外に出かけるように支援されている。誕生日には、本人の希望にそっておいしい物を食べに出かけたり、買い物に出かけている。ドライブでは 野田や大野の溪流をドライブしたり、もぐらんピアに出かけたりしている。家族と一緒に郷土祭や敬老会、映画等に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時ご家族と相談し、自己管理の方、施設管理の方が居る。</li> <li>・基本的に支払いは利用者様自ら買い物できるよう配慮、お金に触れることが出来るよう心掛けている。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が電話したい時には、自分で番号を調べ、自分でダイヤルを回すことが出来るよう支援している。</li> <li>・手紙等出したい時には、職員が寄り添い字を忘れることの不安を解消しながら支援している。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中庭・花壇等利用者様と一緒に作り上げる。</li> <li>・花壇の花等も一緒に選び購入している。</li> <li>・現在はハイビスカスの冬越しに挑戦中。</li> <li>・施設内は、季節のヒントになるよう回廊を歩くと四季が感じられるよう壁画を工夫している。</li> </ul>	地元の木材を使って梁が見えるように建てられ、木目が温かさをかもし出している。神棚があり、年に1回は祈祷してもらっている。窓やガラス戸が多く、中庭に植えた季節の花を眺めたり、隣の保育園の子ども達を眺めながら過ごすことができるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下のベンチ・長いすの設置等少人数での会話を楽しめるスペースがある。</li> <li>・ホールでの活動は2つのテーブルを使いそれぞれ別の活動ができるよう心掛けている。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馴染みのものを持ち込んでいただくようお願いしている。</li> <li>・季節ごとに扇風機を持ち込んだり、コタツを使用したりと、それぞれの生活空間を作り上げている。</li> <li>・部屋の配置等も利用者様と相談しながら決めている</li> </ul>	ベッドが備え付けの洋室と畳敷きの和室が選べるようになっている。テレビや冷蔵庫、テーブルやお花などがそれぞれ个性的に配置され、落ち着いて過ごすことのできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室が分からない方には、目印になるものをつけている</li> <li>・トイレ未使用の場合ドアを半分だけ閉め、使用していないことが分かるよう配慮している。</li> <li>・ホールや廊下には危険がないよう配置を工夫している</li> </ul>		